

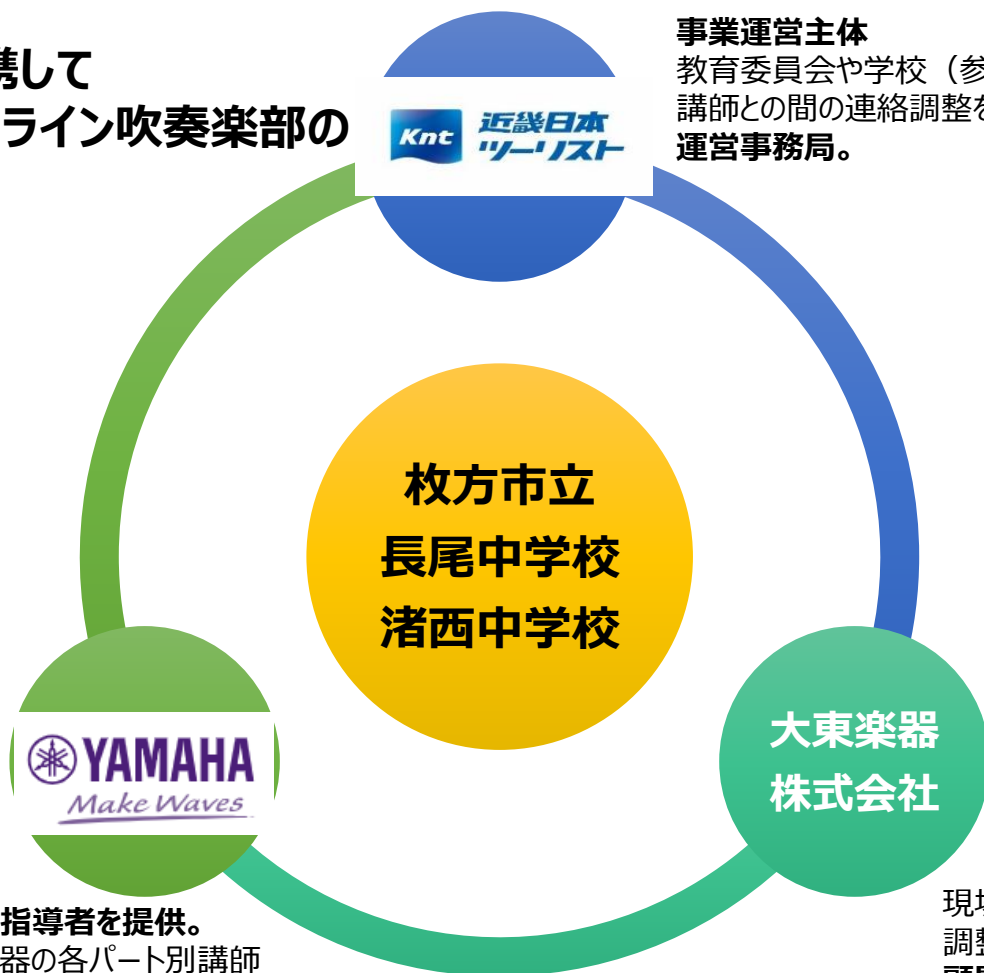
課題

- 指導者の数と質の確保：吹奏楽は専門性が高く、指導者不足が懸念される
- 合同部活動における楽器の移動・活動場所の確保

実証事業 の実施

- 音楽文化創造との連携のもと、枚方市において「デジタル部活動」の実証を実施
- 自校の音楽室にてオンラインを活用し専門的な指導者が指導を行った。

* 三者が連携して デジタルオンライン吹奏楽部の 活動を支援



事業運営主体

教育委員会や学校（参加生徒）、
講師との間の連絡調整を担う
運営事務局。

YMJ所属の専門指導者を提供。
金管・木管・打楽器の各パート別講師
（計3名）を手配。

現場管理員（見守り役）として、実施校との連絡
調整、楽器メンテナンス、機材準備・管理を実施。
顧問の先生の指導以外の業務負担を大きく軽減。

主要な成果

質の高い専門指導の実現

- 参加中学生23人を対象としたアンケートで、91%がオンラインでの指導内容がわかりやすかったと回答
- 78%の生徒が上達したと回答
- 顧問の先生にとっても指導中は他業務が可能となり、先生方の業務軽減にも大きく繋がった。

複数校合同レッスンの可能性

- 他校の取り組みをリアルタイムで見聞きすることで、自分たちの気づきにつながるという意見が多く、合同部活の実現性が示された

コスト効率化

- 遠隔指導の活用により、講師の移動コストや顧問の先生の付き添い時間の削減につながった

近畿日本ツーリスト

文化部活動改革を推進する「デジタルオンライン部活」

活用の基盤

- オンライン吹奏楽で培った「指導者の確保」「機材設定」「現場サポート」のノウハウを、安定した運営基盤として活用

他分野への展開

- 部活動の多様化ニーズに応えるため、事業展開を推進
 - eスポーツ（NTT eスポーツ様と連携）
 - オンラインダンス（エイベックス様と連携）

教員負担のさらなる軽減

- 活動場所の確保や機材の準備・管理などは教員に依存する部分が残る、顧問の先生の負担は完全にはなくなる

持続可能な運営のための重要点

- オンライン実施を持続可能にするには、初期段階での通信機器設定に対応する**現場管理員（見守り役）の存在が不可欠**である

技術的な初期課題の克服

- オンラインツール（ZOOM）が、大きな楽器音を捉えるとノイズキャンセリング機能が作動する技術的問題に直面

今後の展望

- * 現場管理員（見守り役）が部員生徒に設定方法をレクチャーするなどの対応で、顧問の先生の負担をさらに減らす
- * 将来的に現場管理員に依存することからの脱却を目指す
- * これらの知見を活かし、「近畿日本ツーリスト 部活動サポートサービス」として、多くの自治体の地域文化クラブ活動の持続的な運営に貢献していく

運営事務局（近畿日本ツーリスト）とヤマハミュージックジャパンが迅速に対応し、設定変更（ノイズキャンセリング機能オフ）で解決